

HISAKA'S DIARY ちょこっといいハナシのせました!

乞田八幡神社の例大祭。戦後間もなく、**平和を祈り**、地域を明るく楽しくするためにと神社所有の杉、山を売却してつくったお神輿。今年で70周年を迎えました!増田匠議員と一緒に記念撮影。



自衛消防操法大会。
多摩市役所自衛消防隊が第1号消
火栓部門で見事優勝!!



諏訪中学校創立40周年記念式典。
多摩市では10、30、50周年でお祝いの式典を行うときには学校に式典開催のために特別な予算がつくのですが、今回は40周年とイレギュラーな開催でした。「**節目を大事**にすることを子どもたちに伝えたい。」「20年毎だと記録を残すには間隔が開きすぎて、記録が丁寧に残せない可能性も高い。」という校長先生の考えのもとで開催された思い入れのある会でした。



多摩市議会の取り組みは他の議会からも注目されています。**一期一会**。他市の議員の皆さんとの出会いを大切に、視察対応を行っています。



今と未来に向き合う政治をつくろう! HISAKA'S Style

- Style 1 公平公正な姿勢!**
市民全体に向けた活動を心がけ、個人後援会は作りません。
- Style 2 政策づくりが議員の仕事!**
議員としての専門性を磨き、市民の自治力の向上をバックアップします。
- Style 3 話し合いが大切!**
意見の違いは粘り強く議論をつづけることで、「第3の道」を見つける努力をします。

HISAKA'S Profile

北諏訪小学校卒/桐朋女子中・高卒
中央大学法学部政治学科卒
明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科修了
多摩市諏訪在住(33年)
1977年神戸市生まれ うお座 A型
2002年多摩市議会議員に初当選(現在5期17年目)
現在は31代多摩市議会議員。子ども教育常任委員会所属



永山フェスティバルにて。
永さんと清水教育長と撮影。

市議会レポートほうれんそう 岩永ひさかへのご相談は...

ご用件と希望する連絡先を留守番電話へ!必ず折り返します。

TEL 042-371-0763 留守番電話専用

2018年 秋Autumn 第145号

2018年 秋Autumn 第145号

市議会レポート

岩永ひさかのほうれんそう

文章: 岩永ひさか(多摩市議会議員/所属党派: 改革みらい)
多摩市諏訪2-2 B410 プリリア多摩ニュータウン
TEL/FAX 042-371-0763

ブログ更新中!!
ご意見も随時
募集しております!



<http://www.iwanaga-hisaka.net/>

■しばらくぶりのレポート発行となりました。やっと第3回定例会も終わり、ホッとするまもなく...秋のイベントシーズン入り!議長は公務として市内のイベントに参加します。その合間に、「自分時間」をこっそり見つけて...体力づくりのウォーキングをはじめました!

■自然災害が続きます。テレビなどで知りうる被災地の状況...私たち人間がいかに無力であるかを感じさせられます。「大自然」を前にして、私たちには超えられない力の存在を痛感しています。幸いにも私たちの住む多摩市は今のところ大きな被害は免れていますが、決して他人事と済ましてはいけ...小さなところから私たちができる「くらし」の見直しが急務ではないかと感じます。「便利さ」とひきかえに私たちが失くしてきたものを見つめ直したいものです。

2018年 秋
日本の穏やかな四季折々に想いを馳せつつ、被災地を思う。

岩永ひさか



あんなこと
こんなこと



萩原重治前議長が東京都功労者表彰を受賞されました。おめでとうございます!市議会にとってうれしいニュースです。

今回のテーマ

子どもの健やかな育ちを見守れる
「第三の場所」を多摩市にも!
学校だけがすべてじゃない!
民間の力を活かしたい!

子ども教育常任委員会で行政視察(10月10日~11日)。大阪府堺市「子育て世代包括支援センター」、大阪府大東市「不登校対策」についてヒアリングし、取り組み事例を学び、意見交換してまいりました

子どもの健やかな育ちを見守れる「第三の場所」を多摩市にも！ 学校だけがすべてじゃない！ 民間の力を活かしたい！

■学校だけがすべてじゃない！

議員が「学校だけがすべてじゃない！」という発言をすることに批判があるかもしれません。しかし、全国的にも多摩市でも、学校を長期欠席している子どもたちが増えつつあります。なぜ、長期欠席になってしまうのか？その要因はひとつではないからこそ、難しい。しかし、子どもはみんな成長するのです。私は子どもたちの成長力をいつも信じ、見守っていきたく思います。

■無理矢理 学校への戻すの？

私は市議会では子ども教育常任委員会に長年所属しています。そして、子どもに関する不登校など市民からの相談などにも対応してきました。そして、「子どもを再び学校へ」を目標とし、不登校対策に取り組むことに疑問を抱くようになりました。なぜなら、「学校への復帰」という目標が、ますます子どもを、そして保護者を追い詰め、苦しめることになってはいないか？と感じるからです。



平成29年度の調査によると、多摩市で小中学校合わせて不登校児童・生徒数は169名です。特に中学生は140名で、その数は毎年増加傾向にあります。

■多摩市の取組みはいかに？

多摩市は諏訪にある「かけはし」（旧中諏訪小学校跡地・教育センター）の中に「ゆうかり教室」があり、学校に通えない子どもたちのための教室として開設しています。しかし、この教室の最終目標に掲げられているのは、やはり…「学校への復帰（別室登校や教室への復帰。上級学校への進学）」です。

私は、不登校の子どもたちへの支援は、「不登校から何人を学校生活に復帰させたか？」という結果のみではなく、**子どもたちが自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立するということが目標に加えるべきだ**と考えています。また、どの子どもにも起こりうる＝不登校を生み出さない環境づくりも忘れてはいけない大切な視点であると捉えています。

■ていねいなフォローにはどうしても時間が必要。

学校に足が向かなくなった子どもたちに対し、担任の先生、あるいはカウンセラーさんなどを含めて、一生懸命にフォローし、対応しようと努力する姿があることは事実。とは言え、先生たちも「一人の子ども

だけ」にかかりきりになり、時間をかけることが難しい現実もあります。先生たちも忙しい中、じっくりと子どもに向き合いたいという気持ちとは裏腹に、残念ながら、それが許されない状況もあるのです。

学校、教育環境を取り巻く厳しい環境を何とかしたい。でも、ここを変えていくにはとても大きな力が必要となり、多摩市教育委員会の力だけで今すぐ状況を一変させることも難しい。しかし、私は先行事例に学べば、取組みを進めることができはず！と思います。

■視察で学んだことを活かしたい。

私は、昨年、委員会の視察で大阪府池田市「スマイルファクトリー」を見学しました。また、今年は大阪府大東市ふれ愛教室「ボイス」などを通じ、不登校対策に熱心に取り組む職員さんたちの話を伺ってきました。その中で確信したことは、**何よりも必要なことは子どもたちが「自信を取り戻せる」場所、「笑顔を取り戻せる」場所づくりが必要**であるということ。「不登校児童や生徒を学校の戻す」ことを第一目標にせず、子どもと保護者をフォロー



スマイルファクトリー（大阪府池田市）池田市から委託され、不登校や発達障がいを抱える子どもたちの居場所づくりと教育相談を行っています。公教育とNPOが連携し、「新しいがっこうづくり」への挑戦をしています。

できる環境をつくり、解決の糸口を探ることの必要性です。

■教育委員会だけで取り組むには限界があって当たり前！

学校を休んでいる子どもには罪悪感があるのです。そして、保護者にも焦り、不安、心配があり、親子で苦しい状況に置かれるのです。親子に寄り添えていないフォロー。ここには何よりも「時間」が必要です。何よりも「待つ」を重視し、一人ひとりの子どもの心を解きほぐし、笑顔を待つことが大切です。

だからこそ、池田市のように**NPO等民間事業者と協働していく取組み**が求められるのではないのでしょうか？業績管理や目標管理とは一線を画し、「子どもたちの自立」に向けた成長を学校以外でも見守れる場所づくり。「**学校ではない、家でもない、第三の場所**」として、子どもたちの笑顔を取り戻せる居場所、家に引きこもることなく過ごせる場。…多摩市にも必要、求められていると思います。

大人への階段は「不登校」という過程を経ても、上っていくものであるからこそ、既存の枠組みに捉われることなく、子どもたちを支える社会の仕組み、見守れる地域づくりに取り組みたいと考えています。

ひさか